

● CONTENTS ●

- 1315** 論文誌等の完全オンライン化の意義 中島秀之
Why Do We Want to Make All Journals Completely On-line? Hideyuki NAKASHIMA (Vice President, IPSJ / Future Univ. - Hakodate)

特集
Special Features

情報技術が支えるアートと コンテンツの世界 —Art with Science, Science with Art—

Art with Science, Science with Art

- 1318** 編集にあたって 原島 博・土井美和子
Foreword Hiroshi HARASHIMA (The Univ. of Tokyo) and Miwako DOI (Toshiba Corp.)
- 1319** 1. アートを科学する —「描くこと」を中心として 藤幡正樹
The Scientification of Art: Based on Studies of "Drawing" Masaki FUJIIHATA (Tokyo National Univ. of Fine Arts and Music)
- 1327** 2. 身体性メディアによるメディア芸術創造支援 渡辺富夫
Support for the Creation of Digital Media Art by Embodied Media Tomio WATANABE (Okayama Prefectural Univ.)
- 1335** 3. メディア技術が支えるデジタルパブリックアート 廣瀬通孝
Digital Public Art Supported by Advanced Media Technology Michitaka HIROSE (The Univ. of Tokyo)
- 1343** 4. デバイスアート：インタラクティブテクノロジーの美学 岩田洋夫
Device Art: Aesthetics in Interactive Technologies Hiroo IWATA (Univ. of Tsukuba)
- 1351** 5. 効率的アニメ制作支援のための 3 次元 CG 技術 森島繁生・安生健一・中村 哲
Artist-friendly 3DCG Techniques for Efficient Anime Production Shigeo MORISHIMA (Waseda Univ.), Ken ANJYO (OLM Digital, Inc.) and Satoshi NAKAMURA (Advanced Telecommunication Research International (ATR))
- 1359** 6. デザイン転写による音楽制作支援 片寄晴弘
Design Reuse Technology for Music Production Haruhiro KATAYOSE (Kwansei Gakuin Univ. / CrestMuse Project. JST. Japan)
- 1365** 7. 可視化技術で創造力を高める映画制作支援 田村秀行・柴田史久
Enhancing Creative Power in Filmmaking by Pre-Visualization Technology Hideyuki TAMURA and Fumihisa SHIBATA (Ritsumeikan Univ.)
- 1373** 8. オンラインゲームの課題とその制作支援 松原 仁
Issues and Product Supports of Online-games Hitoshi MATSUBARA (Future Univ. - Hakodate)



女性たちが拓くIT —ITダイバーシティフォーラムより—

Women in IT Innovation: Messages from IT Diversity Forum

- 1381** 編集にあたって 安信千津子・山本里枝子
Foreword Chizuko YASUNOBU (Hitachi Consulting Co., Ltd.) and Rieko YAMAMOTO (Fujitsu Labs. Ltd.)
- 1382** 1. 女性の働く環境 — 30 年前の米国と今日の日本 — 國井秀子
Working Women Environment -The 1970's America and the 21st Century Japan- Hideko S. KUNII (Ricoh Co., Ltd.)
- 1389** 2. 次世代の女性技術者たちへのメッセージ 村山優子
A Message for Woman Researchers and Engineers in the Next Generation Yuko MURAYAMA (Iwate Prefectural Univ.)
- 1393** 3. ヒューマンインタフェース研究が与えてくれたダイバーシティ思考 土井美和子
Diversity Erebation Based on Human Interface Research Miwako DOI (Toshiba Corp.)
- 1396** 4. 会社員, そして起業家, とときどき教鞭 中谷多哉子
An Employee, an Entrepreneur, and Sometimes in a University Takako NAKATANI (Univ. of Tsukuba / S-Lagoon, Co., Ltd.)
- 1400** 5. 情報系の仕事の社会的役割を女子中高生に伝えよう —「情報科学」出張講義で考えたこと— 来住伸子
Promoting Jobs in Information Technology to High School and Junior High School Girls : Some Thoughts after Giving Lectures in Computer Science at High Schools Nobuko KISHI (Tsuda College)
- 1404** 6. 考える, 作る, 売るのがビジネス経験と集大成, そしてこれから 大場みち子
My Experience of Thinking, Developing, Selling and Earning a Ph. D., and My Next Stage Michiko OBA (Hitachi Ltd.)
- 1409** 7. インターネット研究へのこだわり in 広島 前田香織
Sustainable Research on the Internet Technologies in Hiroshima Kaori MAEDA (Hiroshima City Univ.)

解説 Articles

- 1413** 大規模データのための対話的テキストマイニング 吉田一星
Textmining for Large-scale Data Issei YOSHIDA (IBM Japan)

連載 Series

- 1421** 仮想マシン道しるべ 仮想マシンを支えるハードウェア技術 (インテル) 岩本成文
A Guide for Virtual Machine Technologies : Hardware Assisted Virtualization Technology Narifumi IWAMOTO (Intel K. K.)

コラム Columns

- 1432** 研究会千夜一夜 「知能」の探求と社会システムへの応用 — 知能と複雑系研究会 — 小野哲雄
1001 SIG Nights : Research on "Intelligence" and Its Application to Social Systems Tetsuo ONO (Future Univ. -Hakodate)
- 1434** 研究会千夜一夜 バイオインフォマティクスへの誘い — バイオ情報学研究会 — 阿久津達也
1001 SIG Nights : An Overview of Special Interest Group on Bioinformatics (SIGBIO) Tatsuya AKUTSU (Kyoto Univ.)
- 1436** 標準化よもやま話 言葉の壁, 文化の差 藤村是明
Small Talk on Standardization : On Culture Gap in Standardization Koreaki FUJIMURA (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST))

その他

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1437 おふいすらん | 1449 アンケート用紙 |
| 1438 会員の広場 | 1450 編集室／次号予定目次 |
| 1440 IPSJ カレンダー | 1451 掲載広告カタログ・資料請求用紙 |
| 1442 人材募集 | 1452 賛助会員のご紹介 |
| 1444 有料会告 | 巻末「情報処理」48 巻総目次 |



巻頭の「論文誌等の完全オンライン化の意義」（中島秀之）は、学会の刊行物のうち論文誌や研究報告等をオンライン化する話。論文誌は2008年度から始めるらしい。出版物としてのジャーナルのモデルも変わる。研究会会場での「印刷資料」もなくなるので、会場へのノートPCの持参の必要性が高まるだろう。Digital Courierも懐かしいJIPの継続物となるそう。なお、本学会誌はオンライン化の対象から外れている。

雑誌のオンライン化もそうだが、情報技術が社会に与え続けている影響は測り知れないものがある。創作活動への影響もその1つ。昔は純粋に人間的な活動と言われてきた創作の分野においても、情報技術の進出は著しい。今月号の特集は「情報技術が支えるアートとコンテンツの世界 —Art with Science, Science with Art—」で、須藤智、原島博、土井美和子がエディタ。描くこと、身体性メディア、アニメへの感性の反映、映画制作、オンラインゲームといったもののほかに、パブリックアートのデジタル版や、ハードウェア機器によるデバイスアートなどが紹介される。単なる技術支援を越えようとする、思いもよらない“邂逅”を垣間見ることができる。

今月号には小特集「女性たちが拓くIT —ITダイバーシティフォーラムより—」もある。山本里枝子、安信千津子がエディタ。ダイバーシティ（多様性）の1つとしてこの業界における女性の活躍を主に個人ベースで紹介。「男という呪縛で人としての生き方を見失っている人もいる」という言もあるが、優しい語り口がうれしい。足りないと言われ続けている女性のロールモデルの例として見ることもできるかもしれない。

「大規模データのための対話的テキストマイニング」（吉田一星）は、（大量の）自然言語テキストに頻出する単語を抽出する技術。データマイニングのテキスト版。対話形式で使用するためのデータ構造のくふうが売り。

「仮想マシンを支えるハードウェア技術（インテル）」（岩本成文）は、“仮想マシン道しるべ”のシリーズ。仮想マシン実現のための（インテルにおける）ハードウェア支援機能の話。この業界では「ハードウェアアクセスを“調停する”」とか「特権命令を“調停する”」といった言い回しをするらしい。

「『知能』の探求と社会システムへの応用 —知能と複雑系研究会—」（小野哲雄）と「バイオインフォマティクスへの誘い —バイオ情報学研究会—」（阿久津達也）とは、“研究会千夜一夜”のシリーズ。前者ではヒューマンエージェント、Web情報の知的処理、社会システム知能などが、後者ではDNA配列から始まる生物対象の情動的な議論などが、それぞれ語られる。

「言葉の壁、文化の差」（藤村是明）は、“標準化よもやま話”のシリーズ。規格の文書中で幅をきかせる、あの悩ましいshallとshouldの話など。“So, it shall be done.”を思い出してしまう。（Skay）



会誌編集委員会

編集長

川合 慧

担当理事

長谷川 亨

松原 仁

本号エディタ

石田 亨

片山 博

兼宗 進

木戸 彰夫

久門 耕一

胡 振江

佐伯 元司

白木 善尚

須藤 智

田中 哲朗

田中 秀樹

土井美和子

野村 佳秀

原島 博

前田 英作

間瀬 久雄

安信千津子

山本里枝子

渡邊 祐治

編集スタッフ

後路 啓子

町田 善江

綿谷 亜樹